

論点整理に係る排出量等の実績について

1 家庭系ごみの推移について

(1) 排出量の推移

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
家庭ごみ	59,624t	58,460t	57,601t	56,583t	56,840t
粗大ごみ	519t	481t	484t	544t	527t
資源化物	16,715t	15,841t	15,198t	14,718t	13,914t
水銀含有ごみ	—	5t	15t	16t	17t
合計	76,858t	74,782t	73,283t	71,845t	71,298t

(2) 一人1日当たりの推移

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
家庭ごみ	513g	508g	504g	500g	504g
粗大ごみ	4g	4g	4g	5g	5g
資源化物	144g	138g	133g	130g	123g
合計	661g	649g	641g	635g	632g

※端数処理により合計が合わない場合がある。

2 食品ロス実態調査について

令和元年度から、国の手引きに従って季節ごとに食品ロス実態調査(家庭ごみ100袋を対象)を実施している。結果は、以下のとおり。

(1) R1春(5/23、5/24)

- ・家庭ごみのうち約17%が食品ロス
- ・家庭ごみのうち約4%、食品ロスの約25%が手付かず廃棄
- ・家庭ごみのうち約9%、食品ロスの約55%が食べ残し

(2) R1夏(8/22、8/23)

- ・家庭ごみのうち約19%が食品ロス
- ・家庭ごみのうち約7%、食品ロスの約38%が手付かず廃棄
- ・家庭ごみのうち約9%、食品ロスの約50%が食べ残し

(3) R1秋(11/28、11/29)

- ・家庭ごみのうち約13%が食品ロス
- ・家庭ごみのうち約3%、食品ロスの約23%が手付かず廃棄
- ・家庭ごみのうち約7%、食品ロスの約57%が食べ残し

(4) R1冬（2/27、2/28）

- ・家庭ごみのうち約13%が食品ロス
- ・家庭ごみのうち約4%、食品ロスの約11%が手付かず廃棄
- ・家庭ごみのうち約7%、食品ロスの約54%が食べ残し

3 家庭ごみ組成調査について

季節ごとに家庭ごみ組成調査（家庭ごみ100袋を対象）を実施している。結果は、以下のとおり。

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
資源化物の割合 （内訳）	11.7%	11.9%	10.9%	9.8%	9.5%
紙類	10.4%	10.9%	10.0%	8.3%	8.5%
空き缶	0.2%	0.1%	0.1%	0.3%	0.2%
空きびん	0.7%	0.5%	0.4%	0.6%	0.4%
ペットボトル	0.1%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%
金属類	0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%

4 生ごみの再生利用事業者について

(1) 秋田協同清掃株式会社

平成29年5月から事業を開始

堆肥化施設であり、処理能力は140kg/日

受入料金は、10円/kg

幼稚園や一部スーパーから原料を調達。

平成30年度は約19t受入れ、令和元年度は約20t受入れ。

(2) 株式会社ナチュラルエナジージャパン

平成29年8月から事業を開始

バイオガス発電施設であり、処理能力は50t/日

受入料金は、11.7円/kg

市内の食品関連事業者から原料を調達

平成30年度は約2,005t受入れ、令和元年度は約2,957t受入れ。

5 減量目標等（令和7年度まで）に対する実績について

(1) 一人1日当たりのごみ排出量

25年度比 約10%減（1,084g→約980g）

【実績】

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
実績値	1,057g	1,045g	1,043g	1,019g	1,000g

(2) 一人1日当たりの家庭系ごみ排出量（資源化物、水銀含有ごみ除く）

25年度比 約10%減（527g→約480g）

【実績】

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
実績値	517g	512g	509g	505g	509g

(3) 事業系ごみ排出量（資源化物を除く）

25年度比 約10%減（45,559t→約41,000t）

【実績】

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
実績値	45,343t	44,940t	45,187t	42,921t	40,784t

(4) リサイクル率

32.1% → 約38%

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
リサイクル率	30.8%	28.9%	29.2%	30.9%	30.9%